

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100446		
法人名	株式会社やさしい手甲府		
事業所名	やさしい手グループホームこうふ西		
所在地	山梨県甲府市上石田1-8-23		
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 11 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 4年 2月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ここ数年コロナ禍で今まで目指してきた地域との交流等が全く行えていない状態が続いている。外出の機会も散歩以外はほぼ0となっている。そのような環境下でできるだけご利用者がストレスを感じず毎日楽しく過ごすことができるかが課題であり、屋内での活動量を増やすための工夫に力を入れている。毎食前の嚥下体操は欠かさず行う。個別での運動レクを取り入れ、それぞれのご利用者に合った軽い運動を実施している。歩く、座る、食べる、トイレに行くなどの普通の日常生活動作が継続できることを目標に生活できるように力を入れている。またご家族に対しては気軽に面会ができることが難しくなっており、GHでのご利用者の状況が分かりづらく不安な気持ちも募っていることとします。緊急な連絡はタイムリーに行っておりますが、一カ月の状態をお知らせするべくお便り以外に定期連絡として毎月後半に職員から電話で状況報告を行っており、安心して頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

生活介護「やさしい手」グループホームは、3階建ての1階、2階に各1ユニットずつを運営しており、同敷地内に訪問、通所、居宅介護支援といった小規模多機能型居宅介護の事業も展開し、高齢者の自立生活を支える地域に根差した事業所運営をしていました。出来るところを温かく見守り、日常の運動機能維持プログラムに取り入れた日々のケアと、個々の利用者への関わりで信頼関係を築いていました。終末期を迎えた際にも利用者・ご家族の意向を聞き取り、後悔しない対応で職員全員が取り組み、各階を越えたチームワーク体制も整え、ターミナルケアを見据えたサービスの提供に努めていました。コロナ禍においても、感染症対策を整えた部屋を完備し、面会者への対応にも好意的に取り組み、日常の様子をしっかりと報告出来るようなユニットを越えた情報体制を整える工夫もされていました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 やさしい手グループホームこうふ西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「心をつむぐ絆」を掲げ利用者、ご家族、地域の方々と心を通わせともに創るその人らしい生活を支援できるよう職員の入社時の初任者研修や毎月のミーティングなどで理念を共有し、実践している。できるように伝えている。	事業所の理念「心をつむぐ絆」を掲げ利用者、ご家族、地域の方々と心を通わせともに創るその人らしい生活を支援できるよう職員の入社時の初任者研修や毎月のミーティングなどで理念を共有し、実践している。できるように伝えている。	施設に家族を預けることを良いのか悪いのか葛藤する時代の中で入居に至った思いをくみ取り、地域との交流を重ね、グループホームへの理解と関係性を深めていきたいとの思いから「心をつむぐ絆」の理念が誕生し、1階フロアやスタッフのカウンタールームに掲示して、今も法人設立時の思いを大切に日々のケアに取り組んでいました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域とのつながりが薄れている。地域との交流ができていないのが現状です。	コロナ禍で地域とのつながりが薄れている。地域との交流ができていないのが現状です。	コロナ禍になる前は、地元文化祭や夏祭りに参加して、積極的な地域参加に心がけていました。組長さんの配慮で回覧板も届くようになっており、地域の情報が入ることで、自粛生活が解除された際には、交流も再開できる関係性がとれていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部との接触が自由にできない中で地域の人々に認知症の理解など実践できていない。	外部との接触が自由にできない中で地域の人々に認知症の理解など実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で運営推進会議が開催できていないのが現状です。	コロナ禍で運営推進会議が開催できていないのが現状です。	運営会議が開催されない中、書面開催で構成委員の方々に配り、意見を受け取る体制を整え、事故報告や身体拘束について伝達していました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	あまり市町村との連携を取ることができておらず、どちらかというと協力関係を積極的に取り組むことができていなかった。	あまり市町村との連携を取ることができておらず、どちらかというと協力関係を積極的に取り組むことができていなかった。	コロナ禍の中、甲府市役所とはメールでやり取りし、感染症レベルが下がり自粛生活が解除された際には、認知症ボランティア研修の実習の受け入れや介護相談員の訪問を再開し、再び市町村との連携を図ってきたいと計画をされていました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回以上の身体拘束の勉強会を行っている。都度全職員が振り返る時間を作っている。ご利用者の自由を奪わないケアを実践するようにしている。施錠に関しては夜間の玄関のみで日中はどこも施錠せず自由に往来できるようにしている。	年に2回以上の身体拘束の勉強会を行っている。都度全職員が振り返る時間を作っている。ご利用者の自由を奪わないケアを実践するようにしている。施錠に関しては夜間の玄関のみで日中はどこも施錠せず自由に往来できるようにしている。	身体拘束防止委員会は設置されていますが、コロナ禍の中開催できないため、毎日のミーティングで身体拘束に配慮したケアに心がけ、スピーチロックにも配慮し、夜間以外は玄関の施錠をしない対応で、拘束のない暮らしの提供に努めていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同じく勉強会などを行い、意見交換を行っている。どんなことが虐待に当たるのか職員には知ってもらおうこと、また耳にしたり目にしたことを職員間で注意できる、指導できる関係性を築いていく。	身体拘束と同じく勉強会などを行い、意見交換を行っている。どんなことが虐待に当たるのか職員には知ってもらおうこと、また耳にしたり目にしたことを職員間で注意できる、指導できる関係性を築いていく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	上記の勉強会に関連付け権利擁護に対する知識を深めミーティングなどで意見交換している。	上記の勉強会に関連付け権利擁護に対する知識を深めミーティングなどで意見交換している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はご家族が理解できるよう説明し、解約等の内容も不安や誤解が無いよう説明を行っている。改定時もタイムリーにご家族に理解して頂ける様に説明を行っている。	契約時はご家族が理解できるよう説明し、解約等の内容も不安や誤解が無いよう説明を行っている。改定時もタイムリーにご家族に理解して頂ける様に説明を行っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 やさしい手グループホームこうふ西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年1回、満足度調査を行っておりアンケートの内容で質の高いケアを実践できるようにしている。アンケート結果をもとに会議などで職員に提示し、情報共有している。意見や要望を受け運営に反映させている。運営推進会などで内容を公表している。	毎年1回、満足度調査を行っておりアンケートの内容で質の高いケアを実践できるようにしている。アンケート結果をもとに会議などで職員に提示し、情報共有している。意見や要望を受け運営に反映させている。運営推進会などで内容を公表している。	今年度も満足度調査は実施し、コロナ禍で職員へのねぎらいの言葉を沢山頂戴していました。以前は月に1度バーベキューや敬老会、いも会、クリスマス会等々の行事を開催し、ご家族との交流を図っていましたが、最近ではガラス越しに面会をして頂き、紙に文字を書いて意思の疎通を図るなど、家族の希望に沿った対応を実践されていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、ユニットごとにスタッフミーティングを開催し、その場で出た意見などを、みんなで考えより良い運営ができる様に反映している。	月1回、ユニットごとにスタッフミーティングを開催し、その場で出た意見などを、みんなで考えより良い運営ができる様に反映している。	最近のスタッフミーティングで利用者の運動不足を心配した意見が出たので、狭くて限られた敷地内ではありませんが、屋外に出での散歩を行っていました。職員間の協力体制も良好で、利用者の健康面に配慮した取り組みが実践されていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対する公正な評価シートがありそれに基づき毎年評価をしている。面談を年二回実施しており、職員の意見や思いを吸い取り継続してやりがいと思える職場環境が作れるように努めている。	職員に対する公正な評価シートがありそれに基づき毎年評価をしている。面談を年二回実施しており、職員の意見や思いを吸い取り継続してやりがいと思える職場環境が作れるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修、中途採用研修、ウエルカム研修、現任者研修などの社内独自で開催している社内研修の参加、認知症実践者研修などの社外研修の参加等で全社的に職員のスキルアップの為の取り組みを行っている。	初任者研修、中途採用研修、ウエルカム研修、現任者研修などの社内独自で開催している社内研修の参加、認知症実践者研修などの社外研修の参加等で全社的に職員のスキルアップの為の取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ前は社外の研修参加、運営推進会議での交流で相互訪問などもできていた。現状はコロナで困難となり同業者との交流が希薄となっている。	コロナ前は社外の研修参加、運営推進会議での交流で相互訪問などもできていた。現状はコロナで困難となり同業者との交流が希薄となっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前は面談などを行い少しずつ信頼関係を作る。個々で状況は違いますがご利用者が安心してサービスを使える様な状態を作り、周囲の方々からの情報収集に努め良い関係性を構築していく。	サービス導入前は面談などを行い少しずつ信頼関係を作る。個々で状況は違いますがご利用者が安心してサービスを使える様な状態を作り、周囲の方々からの情報収集に努め良い関係性を構築していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の気持ちをしっかりと受け止め傾聴する。肯定をしながら話を聞く。色々なご家族がいるので信頼関係の作り方もご家族に合わせ築いていく。	ご家族の気持ちをしっかりと受け止め傾聴する。肯定をしながら話を聞く。色々なご家族がいるので信頼関係の作り方もご家族に合わせ築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずご利用者、ご家族の現状を把握し、いま必要な支援は何か話し合う。時にはケアマネも含めて対応する。同敷地内にはデイサービス、小規模多機能、訪問介護など多数のサービスが存在しているため、紹介させてもらう時もある。	まずご利用者、ご家族の現状を把握し、いま必要な支援は何か話し合う。時にはケアマネも含めて対応する。同敷地内にはデイサービス、小規模多機能、訪問介護など多数のサービスが存在しているため、紹介させてもらう時もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者の状態を踏まえ、一緒に生活を共にする者同士と捉え、お互いに支えあえる間柄となることが必要。馴染みとなった職員と喜び、悲しみなどを共感でき、支えたり教えてもらったりする関係性を作る。	職員はご利用者の状態を踏まえ、一緒に生活を共にする者同士と捉え、お互いに支えあえる間柄となることが必要。馴染みとなった職員と喜び、悲しみなどを共感でき、支えたり教えてもらったりする関係性を作る。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 やさしい手グループホームこうふ西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	以前に比べるとご家族とご利用者の交流が少ない中でできるだけご利用者の情報を報告し、会えない中でも共にご利用者を支えることができる環境設定をしている。	以前に比べるとご家族とご利用者の交流が少ない中でできるだけご利用者の情報を報告し、会えない中でも共にご利用者を支えることができる環境設定をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族とご利用者が互いに会って交流することは難しくなっているが、電話をして声を聞いたり会話したりして関係の継続を支援していく。	ご家族とご利用者が互いに会って交流することは難しくなっているが、電話をして声を聞いたり会話したりして関係の継続を支援していく。	ご近所に住む馴染みの方の急な訪問にも、現状に沿った感染対策の下で面会を実施し、その後の関係性が途切れぬように配慮した対応に努め、馴染みの方々も「また来るね」と気楽に訪問出来る雰囲気がつくられています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士に関係性は把握しているのので、できるだけスタッフが橋渡しとなり良好な関係が築ける様に支援している。	ご利用者同士に関係性は把握しているのので、できるだけスタッフが橋渡しとなり良好な関係が築ける様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りで亡くなった方のご家族にはグリーフケアを行っている。亡くなった後や、他施設に入所されてもご家族が顔を出してくれたり、身内やご親戚を紹介して頂き今もつながっている方もいる。	看取りで亡くなった方のご家族にはグリーフケアを行っている。亡くなった後や、他施設に入所されてもご家族が顔を出してくれたり、身内やご親戚を紹介して頂き今もつながっている方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット固定のスタッフが馴染みとなり、一緒に生活する中で表情や様子、言動の中からご利用者の思いをくみ取り把握している。また、ご家族から話を聞き、生活歴などを参考にして思いや意向を把握できるように努めている。	ユニット固定のスタッフが馴染みとなり、一緒に生活する中で表情や様子、言動の中からご利用者の思いをくみ取り把握している。また、ご家族から話を聞き、生活歴などを参考にして思いや意向を把握できるように努めている。	特に2階のユニットの利用者は重症化しており、常時見守りが必要な方への対応に時間が掛かっています。偏りがちな現状の対応に気づき反省し、手のかからない利用者への声掛けに努めるように職員全員で取り組んでいました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最初のインテークでご本人、ご家族、ケアマネなどからこれまでの生活の情報を聞き取り、アセスメントし把握できるようにしている。またサービス開始後もご本人との会話のやり取りの中で把握に努めている。	最初のインテークでご本人、ご家族、ケアマネなどからこれまでの生活の情報を聞き取り、アセスメントし把握できるようにしている。またサービス開始後もご本人との会話のやり取りの中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の情報の共有に努め、申し送りノートや気づきノートを活用してご利用者の現状把握を職員全員で認識して支援している。	職員間の情報の共有に努め、申し送りノートや気づきノートを活用してご利用者の現状把握を職員全員で認識して支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議等を開催し話し合いの場を設けている。カンファレンスで職員の意見を抽出し、介護計画の見直しを行っている。日々変化する状態を職員全員が把握しケアしている。	担当者会議等を開催し話し合いの場を設けている。カンファレンスで職員の意見を抽出し、介護計画の見直しを行っている。日々変化する状態を職員全員が把握しケアしている。	ケアマネージャーと家族を中心とした担当者会議を開き、その後ケアカンファレンスで職員に繋ぎ、介護計画への見直しを行いました。ユニットを越えて利用者個々への理解を深めることで、面会時のご家族への説明や緊急時の対応などチーム体制を整えていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録の作成。ミーティング時のカンファレンスの実施。職員間での気づきは朝礼で話し合い、連絡ノートに落とし込み情報共有をしている。これらを鑑み計画書に反映させている。	毎日のケア記録の作成。ミーティング時のカンファレンスの実施。職員間での気づきは朝礼で話し合い、連絡ノートに落とし込み情報共有をしている。これらを鑑み計画書に反映させている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 やさしい手グループホームこうふ西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	GHだけにとらわれず今のご利用者の生活状態を検討してニーズに合ったサービスを検討している。	GHだけにとらわれず今のご利用者の生活状態を検討してニーズに合ったサービスを検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの関係で地域資源の活用が希薄となっている。今後に備えて交流できる状況を考えていく。	コロナの関係で地域資源の活用が希薄となっている。今後に備えて交流できる状況を考えていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人、ご家族の意向を確認し、かかりつけ医の受診支援を行っている。急な受診等は職員が臨機応変に対応している。	入居時にご本人、ご家族の意向を確認し、かかりつけ医の受診支援を行っている。急な受診等は職員が臨機応変に対応している。	定期通院はご家族と一緒にかかりつけ医にかかって頂き、緊急時の通院は職員が付き添うようにしていました。転倒や体調急変時は、週に1度訪問して利用者の体調を把握している看護師を通して、医師に伝達し適切な病院へ繋げていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護時にご利用者の状態の相談をしたり、随時電話連絡などで情報を伝えている。情報を伝達することで受診や医師との連携がスムーズになっている。	週一回の訪問看護時にご利用者の状態の相談をしたり、随時電話連絡などで情報を伝えている。情報を伝達することで受診や医師との連携がスムーズになっている。		
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医療関係者とご家族の間に入り詳細な情報を伝えている。また必要時は電王リハの主治医から紹介状を作成して頂き病院関係者との情報交換も密に出来ている。退院時は職員もカンファに参加し安心して退院できるように努めている。	入院時は医療関係者とご家族の間に入り詳細な情報を伝えている。また必要時は電王リハの主治医から紹介状を作成して頂き病院関係者との情報交換も密に出来ている。退院時は職員もカンファに参加し安心して退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行うことができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針を説明し同意を頂いている。また、緊急時や看取りになった際の方向性をご家族と話し合い双方のすり合わせができるようにしている。	契約時に重度化の指針を説明し同意を頂いている。また、緊急時や看取りになった際の方向性をご家族と話し合い双方のすり合わせができるようにしている。	看取りや終末期の状況に応じて、家族の希望に沿った支援を展開していました。重症化や急変時において、その度に家族と向き合い、相談を重ねてその後の対応に繋げていました。一緒にいる時間が増えれば親しみもわき、だからこそ後悔しない支援を職員一丸となり、最後まで対応を続けていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しており、職員は緊急時の初期対応ができるよう勉強会を開催している。救急救命等の訓練も行っている。	緊急時のマニュアルを作成しており、職員は緊急時の初期対応ができるよう勉強会を開催している。救急救命等の訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震対応マニュアル、水害対策マニュアルなどが整備されており、検収も行っている。防災訓練も年2回以上は実施している。	地震対応マニュアル、水害対策マニュアルなどが整備されており、検収も行っている。防災訓練も年2回以上は実施している。	消防署立ち合いのもと年に1回の防災訓練を行い、夜間体制での避難訓練も実施していました。その都度、計画書を作成し、会議で職員全員で振り返りを行い、報告書を挙げて真剣に取り組んでいました。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新しく入った職員を対象に初任者研修を実施している。また上長による倫理マナー研修を年1回は行っており、その他でも事業所内での勉強会を実施。振り返りと反省を行っている。	新しく入った職員を対象に初任者研修を実施している。また上長による倫理マナー研修を年1回は行っており、その他でも事業所内での勉強会を実施。振り返りと反省を行っている。	職員全員が倫理マナー研修を受け、利用者個々を尊重した対応に心がけ、トイレへの誘導時の声掛けや周囲の環境にも配慮した取り組みを行っていました。個々の特性や生い立ちなども周知して、プライドを傷つけないように配慮した対応で居心地の良い環境を整えていました。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

やさしい手グループホームこうふ西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ日常生活の中でご本人の思いや希望が表出できる会話ができる様にスタッフに指導している。ご利用者の表情や言動などを意識して支援している。	できるだけ日常生活の中でご本人の思いや希望が表出できる会話ができる様にスタッフに指導している。ご利用者の表情や言動などを意識して支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを把握しご本人のリズムを崩さない様に支援している。職員側の心のゆとりが大切なのでご利用者に沿ったケアを心掛けるようにしている。	一人一人のペースを把握しご本人のリズムを崩さない様に支援している。職員側の心のゆとりが大切なのでご利用者に沿ったケアを心掛けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の今までの生活習慣を知ったうえでその人らしい身だしなみをしてもらうように支援している。できる方はできるだけ職員Hが見守るだけでご本人に任せるようにしている。	ご本人の今までの生活習慣を知ったうえでその人らしい身だしなみをしてもらうように支援している。できる方はできるだけ職員Hが見守るだけでご本人に任せるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の嗜好を知る。親しい方との席を準備し和やかに食べてもらえる空間を作る。行事などがあるときは季節に合わせた行事食を準備し楽しんで食べて頂く。できる方には茶碗を洗ったり、拭いてもらっている。	本人の嗜好を知る。親しい方との席を準備し和やかに食べてもらえる空間を作る。行事などがあるときは季節に合わせた行事食を準備し楽しんで食べて頂く。できる方には茶碗を洗ったり、拭いてもらっている。	毎日の食事は、温めて食べられる副食を業者から購入し、主食とみそ汁は手作りで提供していました。盛り付けや食器洗いなど、その日の様子や体調に考慮し、無理のない程度に手伝いをしてもらっていました。毎週土曜日の昼食は、利用者の嗜好を聞き取り、季節感も味わってもらえるように工夫した手作り料理を提供していました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がメニューやバランスを考えている。水分は色々な味が提供できるようにしている。ご利用者の状態に合わせて水分の携帯も工夫している。	管理栄養士がメニューやバランスを考えている。水分は色々な味が提供できるようにしている。ご利用者の状態に合わせて水分の携帯も工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。週1回訪問歯科も入っており、治療やケアの必要な方は診てもらっている。歯科医からも常にアドバイスを頂き、ご利用者の口腔内の清潔保持に努めている。	毎食後の口腔ケアの実施。週1回訪問歯科も入っており、治療やケアの必要な方は診てもらっている。歯科医からも常にアドバイスを頂き、ご利用者の口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排尿排便の記録をし、排泄の状態確認を行っている。それぞれの能力に応じた排泄支援を行い、できる限りトイレでの排泄ができるよう支援している。立位が困難な方で2人介助で行いトイレでの排泄が全員出来ている。	排泄チェック表で排尿排便の記録をし、排泄の状態確認を行っている。それぞれの能力に応じた排泄支援を行い、できる限りトイレでの排泄ができるよう支援している。立位が困難な方で2人介助で行いトイレでの排泄が全員出来ている。	利用者個々の排泄状況を職員が共有して、トイレでの自力排泄を目指して日々の対応をしていました。自ら訴える方もいますが、殆どがリハビリパンツを使用して、車椅子の方も夜間のみおむつ使用とし、今ある感覚を可能な限り生かしたケアを実践していました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と活動量の増加に努めている。訪問看護と連携を取っており、内服なども調整しながら便秘の予防策を講じている。	水分摂取と活動量の増加に努めている。訪問看護と連携を取っており、内服なども調整しながら便秘の予防策を講じている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は指定しておらずご本人の状態と意向を確認しながら入浴されている。入浴への拒みが強い方もいるため、スタッフの顔を変えたり、声掛けのタイミングや時間を変えて入浴している。	曜日は指定しておらずご本人の状態と意向を確認しながら入浴されている。入浴への拒みが強い方もいるため、スタッフの顔を変えたり、声掛けのタイミングや時間を変えて入浴している。	入浴日を指定せずチェック表をつけて、最低週2回の入浴を目指して対応していました。自宅で全く入浴出来ずに入居した利用者は、未だ強い拒否がみられ、週1回の時もあるようですが、声掛けの間隔やタイミングを見極めて、職員全員で日々の情報を共有し、ご本人の思いを大切に、様子を見て関わりを続けていました。	
		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意向や状態を見ながら休息を促している。居室の環境を整え夏季や冬季の居室の温度調整を行い、寝具類も調節しながら安眠できるように支援している。	ご本人の意向や状態を見ながら休息を促している。居室の環境を整え夏季や冬季の居室の温度調整を行い、寝具類も調節しながら安眠できるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 やさしい手グループホームこうふ西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のファイルがあるので職員が内服状況を常に把握し、知識を持ち理解するようにしている。内服が変更した時は朝礼などで伝達し、連絡ノートにも記す。誤薬事故が起きないように、名前や日にち、時刻を確認し内服す量に努めている。	処方箋のファイルがあるので職員が内服状況を常に把握し、知識を持ち理解するようにしている。内服が変更した時は朝礼などで伝達し、連絡ノートにも記す。誤薬事故が起きないように、名前や日にち、時刻を確認し内服す量に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	徐々にできないことが多くなりそのことに対する悲しみや意欲低下が現れる方もいるため、今何が出来るかを職員が見出し、負担なく楽しんで役割ができる様に支援している。	徐々にできないことが多くなりそのことに対する悲しみや意欲低下が現れる方もいるため、今何が出来るかを職員が見出し、負担なく楽しんで役割ができる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であるため外出は必要最低限の敷地内での散歩が日課となります。できるだけ四季を味わってもらうように塗り絵を飾ったりして工夫しています。	コロナ禍であるため外出は必要最低限の敷地内での散歩が日課となります。できるだけ四季を味わってもらうように塗り絵を飾ったりして工夫しています。	コロナ禍の中、外出ができないため敷地内の散歩を実施し、限られた中で四季を感じてもらえるように、周りの風景をゆっくり見ながら、散歩を楽しめるように工夫していました。通院時のみ外出が認められているので、近くの病院への道中が散歩を楽しめる時間となっていました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金としてGHsで現金を預かり保管、運用しています。お金を所持していることで落ち使える方にはある程度のお金をご本人に持ってもらっています。機会があれば自分で買い物して支払うことが出来る支援もしていますが、現状はコロナで外出できていない状況です。	預り金としてGHsで現金を預かり保管、運用しています。お金を所持していることで落ち使える方にはある程度のお金をご本人に持ってもらっています。機会があれば自分で買い物して支払うことが出来る支援もしていますが、現状はコロナで外出できていない状況です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある限りは電話や手紙のやり取りなど自由で規制はないです。また今は携帯電話を所持している方も増えてきており、自由に使ってもらっています。	希望がある限りは電話や手紙のやり取りなど自由で規制はないです。また今は携帯電話を所持している方も増えてきており、自由に使ってもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は居心地よくしてもらうために適宜状況に合わせて、レイアウトの変更をしている。急激に変えたとご利用者の気持ちに乱してしまうこともあるため、徐々に変更している。	共有空間は居心地よくしてもらうために適宜状況に合わせて、レイアウトの変更をしている。急激に変えたとご利用者の気持ちに乱してしまうこともあるため、徐々に変更している。	畳にこたつを作っていた時期もありましたが、今は畳の上にソファを置いて寛げる空間を広げるなど、その時々状況に応じた対応がされていました。食事の時のテーブルメンバーも決まった顔ぶれでなく、時々リフレッシュ出来るように席替えをしていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の意向や職員側からの観察で心地良い居場所を自分で見つけている方が多い。職員も援助しながら思い思いに過ごされている。	ご利用者の意向や職員側からの観察で心地良い居場所を自分で見つけている方が多い。職員も援助しながら思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時にご本人やご家族に愛着のあるものを持参して頂き居室を作ってくださいと伝えている。それぞれご家族の思いが詰まった居室の空間に仕上げられている。	契約時にご本人やご家族に愛着のあるものを持参して頂き居室を作ってくださいと伝えている。それぞれご家族の思いが詰まった居室の空間に仕上げられている。	入居時にテレビや机・タンスなど馴染みの家具を持ち込み、自宅に居る時と同じ雰囲気を作り、仏壇・遺影等も持参し、壁には、色紙や趣味の作品を飾るなど、それぞれの思いの詰まった部屋となっていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症の進行とともに今までわかっていたトイレや居室がわからなくなる。本人の不安を解消する声掛けや各居室に名前を表示、トイレがわかる表示などをしてできるだけ自立した生活が営めるように工夫している。	認知症の進行とともに今までわかっていたトイレや居室がわからなくなる。本人の不安を解消する声掛けや各居室に名前を表示、トイレがわかる表示などをしてできるだけ自立した生活が営めるように工夫している。		